

もっとちかくに ずっとそばに

サステナビリティ レポート2025



くらしに笑顔お届けします

大阪いずみ市民生活協同組合



目次	01
ごあいさつ	02
私たちのめざすもの	
いずみ市民生協グループの理念・2030年ビジョン	03
誰もが笑顔でくらすことができる持続可能な社会の実現をめざして	04
取り組みの概要	
取り組み課題マップ	05
データでみる2024年度の取り組み	07
取り組みの内容	
事業を通じたお役立ち	
エシカル消費	09
産直	11
食の安全	13
地球環境を守る	
脱炭素社会の実現	15
循環型社会の実現	17
まちづくりへの参加	
お買物支援	19
地域福祉「とまとちゃん福祉基金」	21
被災地支援	23
人権・平和	
人権尊重と平和の取り組み	25
人的資本経営の推進	
働きがいのある職場づくり	27
第三者意見	
社会的責任懇談会	29
事業・運営概況	
生協って何？	30
いずみ市民生協の概要と事業紹介	31
いずみ市民生協 50年のあゆみ	33

サステナビリティレポート2025

いずみ市民生協グループの理念・2030年ビジョンに基づく「サステナビリティ基本方針」に掲げる課題の到達点などを中心に報告します。

■対象組織

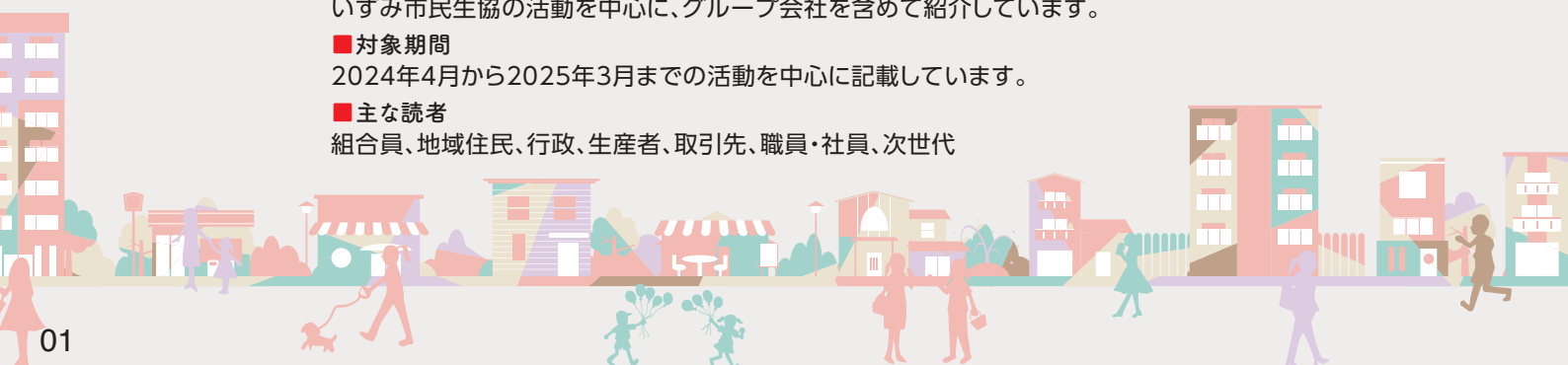
いずみ市民生協の活動を中心に、グループ会社を含めて紹介しています。

■対象期間

2024年4月から2025年3月までの活動を中心に記載しています。

■主な読者

組合員、地域住民、行政、生産者、取引先、職員・社員、次世代





もっとちかくに ずっとそばに

2025年6月17日
大阪いずみ市民生活協同組合
専務理事

久保 幸雄



地球規模での気候変動が深刻となり、「地球沸騰化」ともいわれる危機的な状況に陥っています。2024年の世界平均気温は、産業革命以前より1.5℃を超える上昇を記録しています。また、ロシア・ウクライナ戦争やガザ地区での人道的危機、中東・アジアでの地域紛争、安全保障を揺るがす懸念事項など、国際社会は深刻な人道危機に瀕しています。SDGs（持続可能な開発目標）の進捗も、半数が最低限または中程度の進展に留まり、3分の1以上は停滞もしくは後退している現状にあります。これらのことは、未来を担う世代にも影響を及ぼすものであり、私たち一人ひとりが責任を持って解決に向けた行動をしていく必要があります。

一方で、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）は、長年にわたる地道で卓越した活動が国際的に評価され、ノーベル平和賞を受賞しました。いずみ市民生協は、全国の生協と連携し、日本被団協とともに、国際会議への代表派遣や署名などを通じて、多くの人々が被爆の実

相に触れる貴重な機会を提供してきました。

戦後80年という節目の年を迎え、その体験が直接語られる機会が限られてきています。私たちは、その想いを継承し次世代へとつなげてまいります。

国連は、2025年を「国際協同組合年」と決めました。これは協同組合が果たしてきた社会的役割が認められた証です。これを機に、協同組合の本質的な価値を地域にくまなく伝え、理解が深まる取り組みを行うことが重要です。

いずみ市民生協グループは、「もっとちかくに ずっとそばに ～コープは、つながる力で笑顔を広げます～」を2030年ビジョンに掲げています。これからも「くらしに笑顔」を届ける存在として、地域における役割を担い、事業と活動を通じて課題解決に取り組み、持続可能な社会への架け橋であり続けます。

引き続き、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。



私たちのめざすもの

いずみ市民生協グループの理念



いずみ市民生協グループは
「くらしに笑顔」をお届けします。

そのために

1

組合員と
地域社会の要望を、
事業を通じて
実現します。

2

平和で持続可能な
社会の実現の
ために
行動します。

3

安心して暮らせる
地域社会づくりに
参画します。

4

組合員の多様な
活動を支援
します。

2030年ビジョン

もっとちかくに ずっとそばに
～コープは、つながる力で笑顔を広げます。～

つながる力とは、人々がつながり・助け合う「協同の力」です。

いずみ市民生協は、地球にくらす人・生き物すべての笑顔のために、

組合員、職員、地域の方、自治体、NPO、生産者、事業者など

多様な個人と団体とのつながる力をさらに広げ・強めます。



生協の理念・ビジョン
詳しくはコチラ



[https://www.izumi.coop/about/
coop-info/philosophy/](https://www.izumi.coop/about/coop-info/philosophy/)

誰もが笑顔でくらすことができる持続可能な社会の実現をめざして

いずみ市民生協グループは、
誰もが笑顔でくらすことができる
持続可能な社会の実現をめざし、
事業や活動に取り組んでいます。

2030年ビジョンメッセージ「もっとちかくに ずっとそばに」を合言葉に、
組合員、地域に寄り添いながら、つながる力で、事業や活動に取り組んでいます。

つながる力で取り組む課題

- 事業を通じたお役立ち
- 地球環境を守る
- まちづくりへの参加
- 人権・平和

取り組みを支える課題

- 働きがいのある職場づくり
- 公正取引
- 民主的運営と健全経営



サステナビリティ
基本方針はコチラ



<https://www.izumi.coop/about/coop-info/philosophy/#sustainabilitypolicy>

国連総会は、2025年を「国際協同組合年」と定めると宣言しました。

さまざまな社会課題が深刻な今、課題解決に貢献してきた協同組合への期待が高まっています。

引き続き、いずみ市民生協グループは**事業と活動を通じて、地域が抱えている課題の解決**に向け、取り組みをすすめます。

国際協同組合年を契機に、「もっとちかくに ずっとそばに」のビジョンメッセージがより際立つ、**地域になくてはならない存在をめざし、くらしに笑顔をお届けしていきます。**



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

つながる力で取り組む課題

商品・サービスの提供を通じて、
暮らしに笑顔をお届けします。

商品・サービスの提供を通じて、消費者・地域社会の信頼と期待に応える取り組みをすすめています。

- 消費者・地域社会の声を生かした商品・サービスの提供
- 食品安全の取り組み
- エシカル商品の普及
- 消費者の権利保護



健康で安心してらせる、
つながりのあるまちづくりに参加します。

地域住民、行政、団体とともに、つながりのあるまちづくりのために取り組みをすすめています。

- 子育て支援、食育
- 生活困窮、子どもの貧困対応
- 行政と連携した取り組み
- 地域団体の支援
- 学習・イベント活動



事業を通じた
お役立ち



まちづくり
への参加

誰もが健康でいきいきと
働き続けられる職場をつくります。

職員・社員が誇りをもって働き続けることができる取り組みをすすめています。

- 生協の理念・ビジョンの学習
- 労働災害・ハラスメント防止の取り組み
- 多様な人材が活躍できる職場づくり
- ワークライフバランスの推進
- 職員・社員の成長を促す研修制度

取り組みを支える課題

地球環境 を守る



豊かな地球環境を守ります。

子どもたちに豊かな地球を残すための取り組みをすすめています。

- 再生可能エネルギーの開発・利用
- 省エネの取り組み
- 食品廃棄物削減の取り組み
- プラスチック削減の取り組み
- 宅配の商品案内の紙削減
- リサイクル
- 学習・イベント活動



人権・平和



人権を尊重します。

誰一人取り残さない。その前提として人権尊重・平和の取り組みをすすめています。

- カスタマーハラスメントへの対応
- 戦争体験の語り継ぎ
- 署名活動
- 高校生沖縄特派員の取り組み



いかなる取引も対等な立場で、 公正に行います。

取引先にも「サステナビリティ基本方針」への理解と協力を求めるとともに、コミュニケーションを大切に、よりよい関係を築きます。

- お取引先を対象とした公益通報窓口の設置
- 「ホワイト物流」運動への協賛
- 組合員と生産者の交流を推進

透明で健全な強い事業経営を築きます。

- 組合員参加を広げ、組合員の総意が適切に反映されるよう運営します。
- 事業リスクを適切に管理し、効率的で健全かつ迅速な経営判断・意思決定を行います。
- 積極的な情報開示と双方向コミュニケーションを推進し、透明性の高い運営を行います。



いずみ市民生協グループデータでみる2024年度の取り組み



事業を通じたお役立ち

主な事業

食の安全

エシカル商品

産直

いずみ市民生協アプリ

宅配事業

16 共同購入センター
供給高: 666.1 億円

店舗事業

12 店舗 供給高: 282.7 億円/
コープ富田林店をオープン

高齢者福祉事業

事業種類: 9 種類 事業所: 17 か所

保障事業

CO・OP共済と保険の保有件数: 291,172 件
CO・OP共済の共済金のお支払い: 21.3 億円

サービス事業

供給高: 14.7 億円
(カタログ・通販・チケットなど)

コープの夕食宅配

平均食数1日当たり
10,654 食

コープのネットスーパー

3,174 人の利用

食品安全プログラムの取り組みの推進

商品調達や商品検査などの
12 の管理プログラムを運用

商品検査センター

検査数 24,861 件

エシカル商品の普及

6,575.7 万点 244.9 億円

産直産地

103 産地 181 品目

産直商品の普及

2,145.7 万点 76.0 億円

産地を訪ねるプラン

4 企画 75 人参加

いずみ市民生協アプリ

31.8 万ダウンロード

いろんな
取り組みを
してるんだ



地球環境を守る

CO₂排出量の削減

食品廃棄物の削減

宅配の紙使用量の削減

プラスチック容器包材の排出削減

組合員協力リサイクル

CO₂排出量

7,823 トン

電気由来のCO₂排出ゼロの施設

13 か所 (3 物流センター、10 店舗)

太陽光発電所

太陽光発電所: 18 か所

太陽光発電

1,536.8 万kWh
(4,639 世帯の年間電気使用量に該当)

おおさか気候変動対策賞

特別賞
(脱炭素化ランク: ゴールド) を受賞

食品廃棄量

646.3 トン
(基準年2018年比58.2%)

食品リサイクルループ

売れ残った食品をたい肥にリサイクル
⇒ たい肥を使って野菜の栽培
⇒ 宅配と店舗で野菜を販売

宅配事業の紙の使用量(配布量)

8,144.8 トン
(基準年2019年比74.6%)

店舗の容器包材

110 アイテムの容器包材を
リサイクル原料を使用したものに変更

宅配でのリサイクル

5 種類で 4,735.9 トンを回収

店舗でのリサイクル

4 種類で 83.0 トンを回収



まちづくりへの参加

お買物支援

つながりのあるまちづくり

行政との連携した取り組み

子育て支援／食育の取り組み

募金

基金・寄付金

コープのお買物便(移動販売車)

17行政 291 停留所を巡回

コープのらくらくショッピングカー

コープのお店に無料で
送迎するサービスを7店舗で実施

とまとちゃん福祉基金

65団体に約1,557万円を支援
1年間でのべ8万人の支援

食材の提供

子ども食堂などの
運営団体や生活困窮者に
91.4トンの食材をお届けしました

コープのえほんでスマイル

のべ12,559世帯と
1,442施設に無償で絵本をお届け
105施設の7,003人の
子どもに絵本のキャラバン隊を派遣

はじまるばこ

申込数: 9,210箱
新生児のいるご家庭に無料で提供

地域子育て支援拠点事業

9会場でのべ16,014家族が利用
(5市から委託や補助を受けて運営)

コープ・ラボ たべる＊たいせつミュージアム

年間来館者数: 小学校の利用 見 学: 49校 3,601人
出張授業: 130校 8,168人

令和6年能登半島地震災害支援募金

金額: 55,500,000円

令和6年能登半島豪雨緊急支援募金

金額: 20,544,404円

ユニセフ募金

金額: 2,943,112円

緑の募金

金額: 250,807円

とまとちゃん福祉基金

金額: 25,778,756円

マルイ元気米たまご応援基金

金額: 2,349,716円

久米島美ら海環境基金

金額: 827,340円

スマイルコープ環境寄付金

金額: 11,056円

レジ袋販売による収益寄付金

金額: 1,679,041円

SDGsコンテンツ寄付金

金額: 1,394,796円



人権・平和

人権デューデリジェンスの推進

平和

職員・社員の人権学習

学習資料を全職員・社員に配布し
学習を推進

取引先向けの人権学習会

74社が参加

取引先を対象とした人権アンケートの実施

140社が回答

「カスタマーハラスメントに対する基本方針」を策定

平和署名

核兵器禁止条約に
署名・批准を求める署名
4,628筆(累計)

戦争体験の次世代への継承

「私の戦争体験 第46集」を発行

高校生“沖縄特派員”新聞

7人の高校生が取材し、vol.6を発行

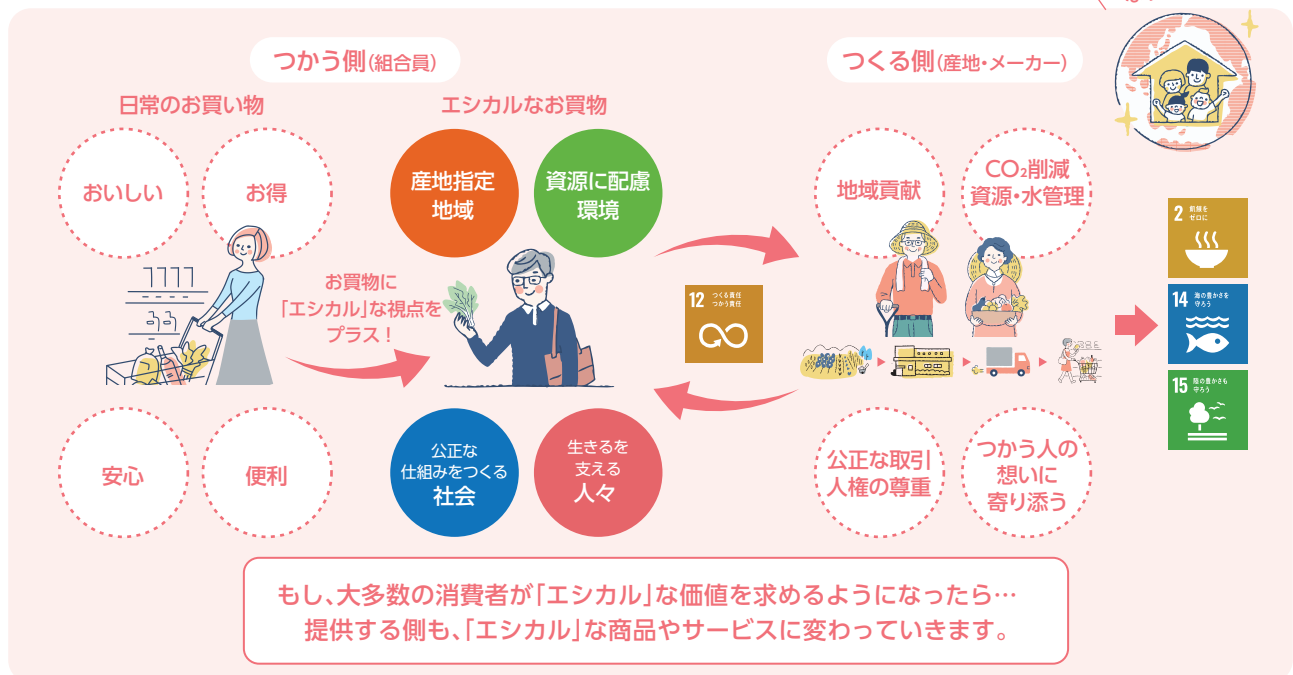
エシカル消費



サステナブル(持続可能)な社会のために、誰もが貢献できるお買物を広げています。

「エシカル消費」とは、「誰かの笑顔につながるお買物」。

くらしや
社会がよりよ
くなります！



エシカルな取り組みを推進しています。

環境、地域、社会、人々に配慮した商品の普及と開発をすすめています。

- ①産直商品
- ②社会的認知を受けた「人や社会・環境に配慮した商品」
- ③社会貢献の寄付金付商品
- ④産地・国産素材指定のコープ商品

● 地域・社会・人々への配慮

分 類	取り組み内容
基金積立商品	「久米島もずく」「マルイ元気米たまご」の利用を通じて産直産地を支援。商品1点の購入につき、3円を基金に積み立てて、環境保全活動などに役立てています。
コアノン・スマイル スクールプロジェクト	「コアノンロール」の利用を通じて、アンゴラの学校づくりを支援。

📷 エシカル消費を推進するために、イベントやキャンペーンを行っています。

店舗では「生産者と組合員をつなぐコープの産直点つなぎイラスト」、「なるほどエシカルすごろく」などを実施しました。

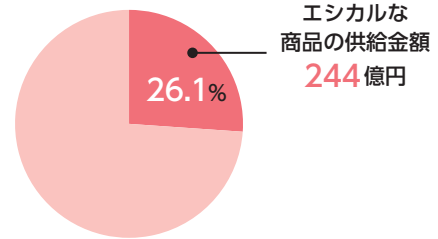


エシカルな商品の普及実績

	供給点数
環境に配慮した商品	3,203万点 (前年比104.7%)
地域に配慮した商品	4,258万点 (前年比95.6%)
社会に配慮した商品	172万点 (前年比98.1%)
人々に配慮した商品	5万点 (前年比96.7%)
合 計	6,576万点 (前年比99.9%)

*エシカルな商品として区分する上記4つは、重複してカウントしている商品がありますが、合計の数値には重複はありません。
*前年の供給金額・点数は、2024年度の対象商品に合わせてカウントしなおしています。

エシカルな商品の供給金額が供給高全体に占める割合は26.1%です。



宅配と店舗の総供給金額 936億円

環境に配慮した商品の普及実績

*掲載している商品は取扱商品の一例です。

エコマーク

供給点数 409.8万点 (前年比92.7%)

生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。



コアノン
ロール

FSC®

供給点数 1,044.9万点 (前年比107.2%)

適切に管理されたFSC認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。



ミックスキャロット
(包材)

MSC

供給点数 81.4万点 (前年比92.6%)

水産資源を枯渇させないよう、漁獲量や漁法・漁の時期、生態系などに配慮した漁業でとられた水産製品です。



無着色
辛子明太子

ASC

供給点数 0.8万点 (前年比262.9%)

環境と社会に配慮した責任ある養殖場で育てられた水産製品です。



骨・皮取り
サーモンカット

マリン・エコラベル・ジャパン

供給点数 65.0万点 (前年比119.1%)

海と資源を守ることが認証された漁業や養殖業で生産された水産物です。



ふくら
しらす干し

オーガニック (有機栽培)

供給点数 66.7万点 (前年比93.9%)

一定の基準で農薬や化学肥料を使用せず、に作られた農産物とその製品です。



有機栽培
ルイボスティ

特別栽培農産物

供給点数 151.1万点 (前年比108.5%)

農薬の使用回数や化学肥料の窒素量を一定基準以下で作った農産物とその製品です。



特別栽培米能登米
コシヒカリ

レインフォレスト・アライアンス

供給点数 28.7万点 (前年比103.8%)

レインフォレスト・アライアンス認証農園からの製品は、人と自然にとってより良い未来を推進する方法で栽培されたことを意味しています。ra.org/ja



セイロン
紅茶

洗剤環境寄付キャンペーン

供給点数 10.3万点 (前年比105.2%)

コープの洗剤を1点ご購入いただくごとに、0.5円がWWFジャパンに寄付されます。



セフターE

RSPO

供給点数 155.1万点 (前年比113.1%)

持続可能な調達を応援し、適切に管理されたパーム油でつくられた商品です。



セフター
Energy
抗菌防臭

食品リサイクル農産物

供給点数 72.8万点 (前年比118.9%)

いずみ市民生協グループの食品リサイクル・ループによって生産された農産物です。



コープ彩園
小松菜

いろんな商品があるんだね



大阪もん商品の普及

地域で生産された商品をその地域で消費することはエシカル消費の取り組みです。いずみ市民生協創立50周年企画として、大阪もん商品の開発・普及をすすめました。



産直



自然環境や生き物を大切にしながら、「もっと安全で、もっとおいしいものを」の声に応えます。

コープの産直とは？

お互いの声が届く！

組合員との交流を大切にする顔の見える産地。



自然への愛にあふれている

自然環境や生き物、人を大切にする持続可能な社会をめざしている産地。



安心の品質管理

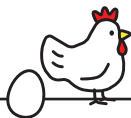
いずみ市民生協・わかやま市民生協の品質保証の仕組みに対応できる産地。



生協の産直は、私たちの家族のように全国につながっています。

主な産直産地

103産地 181品目



鹿児島県 マルイ農協

主な生産物: たまご、鶏肉



ひなの生産、飼料の製造、鶏卵・鶏肉の処理加工、販売、物流、環境保全型エコロジーまで含めた養鶏のインテグレーターとして商品をお届けしています。

島根県

産地数: 2
品目: 5



福岡県

産地数: 3
品目: 3



愛媛県

産地数: 2
品目: 5



大分県

産地数: 1
品目: 1



高知県

産地数: 1
品目: 1

熊本県

産地数: 6
品目: 15



長崎県

産地数: 7
品目: 19

鹿児島県

産地数: 3
品目: 5

沖縄県

産地数: 3
品目: 3



産地交流の様子

「作る人」と「食べる人」が直接つながり、顔を合わせてお話する機会があります。2024年度は久米島漁協、大内山酪農、マルイ農協などを訪問しました。



産地を訪ねる旅プラン:
4企画・75人参加



メーカーを囲むつどい/産地・工場見学:
76企画・1,546人参加



久米島漁協



マルイ農協



大内山酪農



北海道 トップファーム

主な生産物:サロマ黒牛



牛さんの健康と美味しさを求めて配合した発酵飼料がおいしさの秘密です。牛さんたちの幸せが、私たちトップファームの幸せです。



北海道

産地数:11
品 目:26

青森県

産地数:2
品 目:2

秋田県

産地数:5
品 目:7

岩手県

産地数:1
品 目:1

新潟県

産地数:5
品 目:5

山形県

産地数:2
品 目:4

石川県

産地数:2
品 目:2

富山県

産地数:1
品 目:1

群馬県

産地数:1
品 目:1

鳥取県

産地数:1
品 目:1

福井県

産地数:2
品 目:2

兵庫県

産地数:2
品 目:2

滋賀県

産地数:1
品 目:1

長野県

産地数:6
品 目:12

山梨県

産地数:1
品 目:1

茨城県

産地数:5
品 目:6

千葉県

産地数:4
品 目:4

大阪府

産地数:5
品 目:9

香川県

産地数:1
品 目:1

和歌山県

産地数:13
品 目:19

三重県

産地数:2
品 目:4

三重県 大内山酪農

主な生産物:牛乳



設立当初から「良質な牛乳づくりは健康な牛づくりから」を合言葉に、乳牛の健康を第一に考えた酪農に取り組んでいます。



※重複またはまとめてカウントしている産地・産直品があります。

組合員が直接点検する様子(点検補助員制度)

講習を受けた組合員が「点検補助員」として産地を訪問し、栽培基準や農薬管理をチェック。

CHECK 8産地のべ36名が点検



生産者から説明を受けているようす

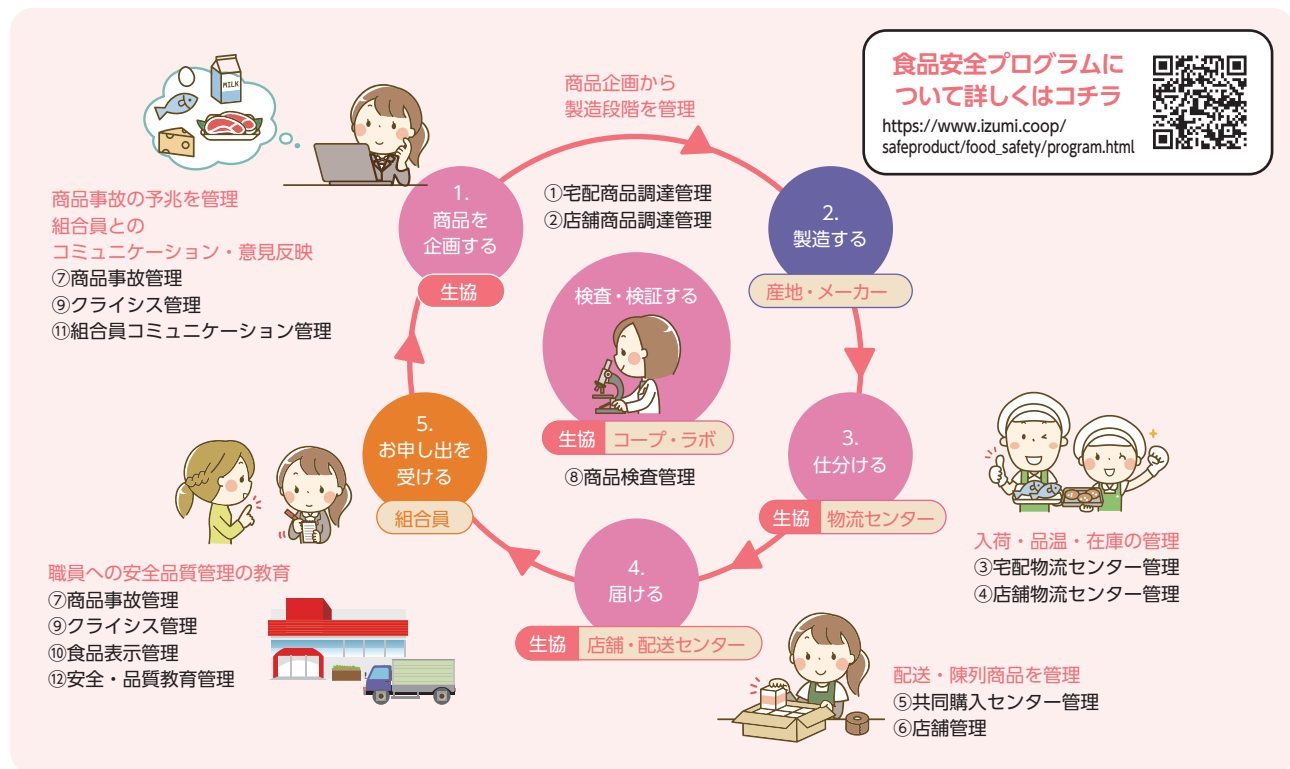


点検をしているようす

食の安全

商品の生産から販売、その後の対応まで「安全」の努力を行っています。

食品安全プログラム



●組合員コミュニケーションを積極的に行っています。



堺東会場のようす



東大阪会場のようす

📷 コープ・ラボ たべる*たいせつミュージアム

食の安全や食育をテーマに、見学・体験・学習できる施設です。

Voice 出張授業をご利用 いただいた先生の感想

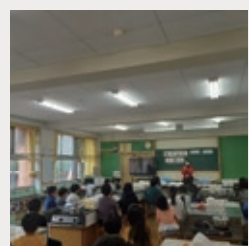
とても丁寧な説明でわかりやすく、素晴らしい体験ができました。この体験を通して豆腐について知りたいという意欲が高まりました。ありがとうございました。

Voice 社会見学で来た 児童の感想

アレルギーや食中毒菌のことについて学びました。クイズなどがとても楽しくてすごくいい思い出になりました。また家族と来たいです。

Voice イベント参加者の 感想

丁寧に実演で教えてもらったので子どもたちも理解できて積極的に取り組みました。大人も予想外の実験結果で家族全員学びになりました。子どもたちもとても楽しかったようです。



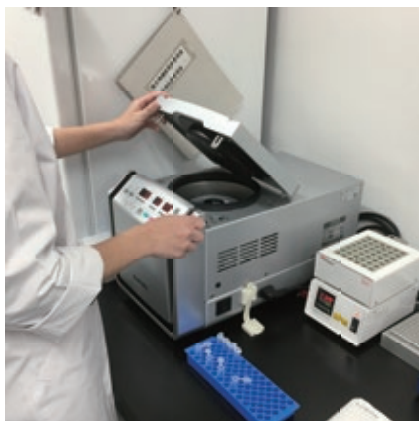
出張授業のようす

商品検査センター(コープ・ラボ)

科学的な検査・検証を通じて、安全・安心な商品づくりを支える重要な役割を担っています。



微生物検査のようす



PCR検査のようす



残留農薬検査のようす

●2024年度コープ・ラボ検査数

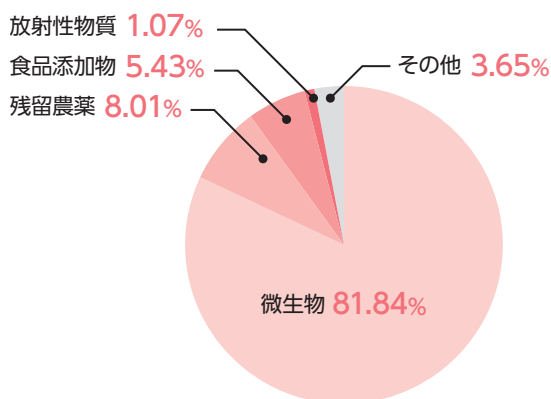
年間24,861件の検査を実施しました。

検査項目	検査数	検査割合
微生物	20,345	81.84%
残留農薬	1,991	8.01%
食品添加物	1,350	5.43%
放射性物質	267	1.07%
特定原材料	230	0.93%
臭気分析	144	0.58%
ヒスタミン	109	0.44%
PCR	81	0.33%
微量元素	138	0.56%
総水銀	71	0.29%
カドミウム	90	0.36%
動物用医薬品	33	0.13%
異物	12	0.05%
合計	24,861	100.00%

●検査の内訳

食品をお届けする上で最も怖いのは死亡や重大な健康被害につながる食中毒です。

コープ・ラボでの検査も8割以上は食中毒を防ぐための微生物検査です。



コープ・ラボについて
詳しくはコチラ

https://www.izumi.coop/safeproduct/food_safety/cooplabo.html

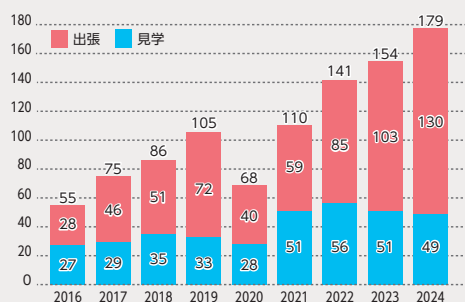


社会見学のようす



イベントのようす

●小学校利用校数の推移



コープ・ラボ
たべる*たいせつ
ミュージアムについて
詳しくはコチラ



https://www.izumi.coop/safeproduct/food_safety/museum.html

脱炭素社会の実現



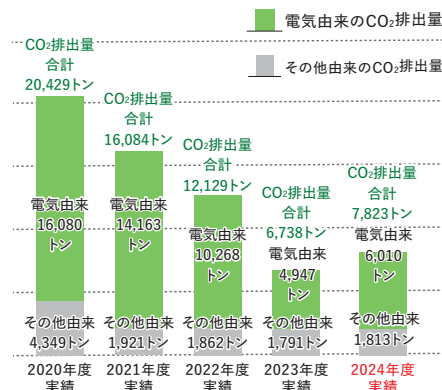
ゼロエミッション目標

2050年までに「CO₂排出ゼロ」を実現します。
生協が使用する電気由来CO₂排出量について、
2030年より実質ゼロを実現します。

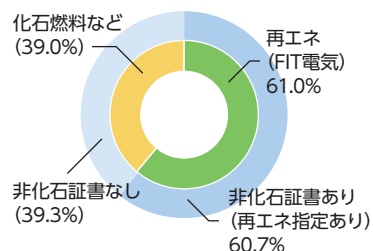
到達点

- ・2019年度から61.8%のCO₂排出を削減しました。
- ・非化石証書を1,340万円(購入量3,038万kWh)購入しました。
- ・35施設のうち13施設を「電気由来のCO₂排出ゼロの施設」に転換しました。
- ・再生可能エネルギー比率が61.0%になりました。

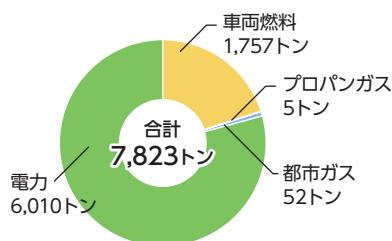
CO₂排出量の推移



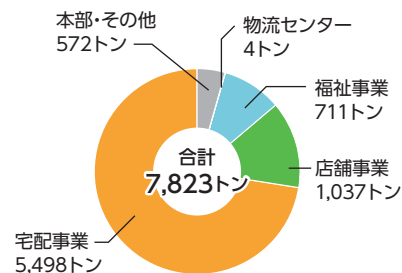
電源構成と非化石証書の購入割合



エネルギー別CO₂排出量



事業部門別CO₂排出量



今後の課題

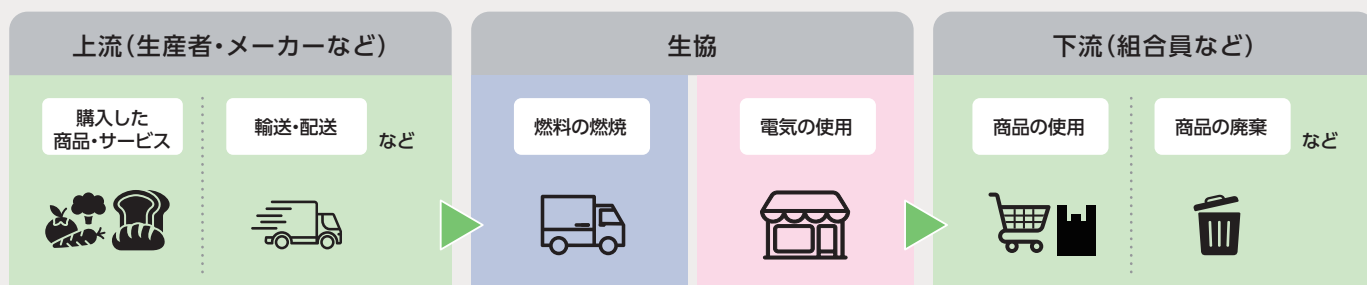
- 再生可能エネルギー発電所の開発をすすめます。
- バリューチェーン全体の排出削減に取り組み、2030年までには削減目標を設定します。
- バリューチェーン排出量の算定をすすめています。
- 調達した商品・サービスの排出が約70%を占め、調達先・産地とともに、削減をすすめる必要があります。

2024年度 バリューチェーン排出量

Scope	カテゴリ	排出量 (t-CO ₂ e)	割合
Scope1	直接排出	3,594	0.7%
Scope2	間接排出	6,010	1.1%
Scope3	購入した製品・サービス	360,902	68.3%
	その他	157,817	29.9%
合 計		528,323	100.0%

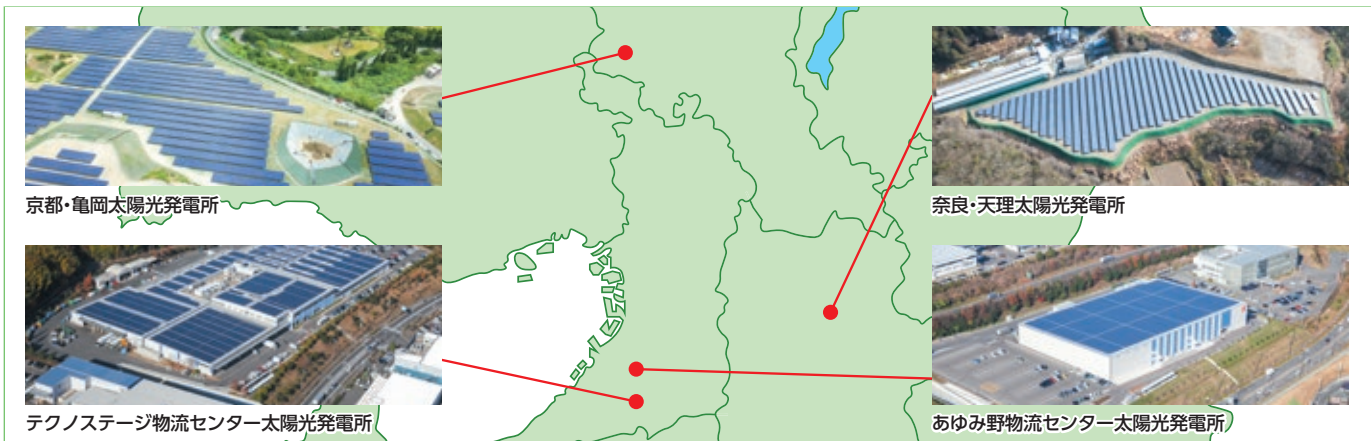
バリューチェーン全体の排出削減に取り組みます。

生協の事業・活動にかかわるすべての温室効果ガスを削減していく活動です。取引先、組合員とともに削減をすすめます。



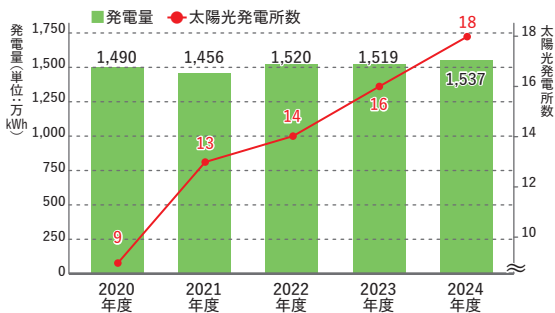
再生可能エネルギーをつくる

発電所マップ



再生可能エネルギーを「つくる」「つかう」「ひろげる」の取り組みの一環として、再生可能エネルギー発電所の開発を積極的に行います。2024年度にコープ野々井店の壁面とコープ久米田店の屋上に自家消費型の太陽光発電パネルを設置しました。

太陽光発電量と発電所数の推移



共同購入センター

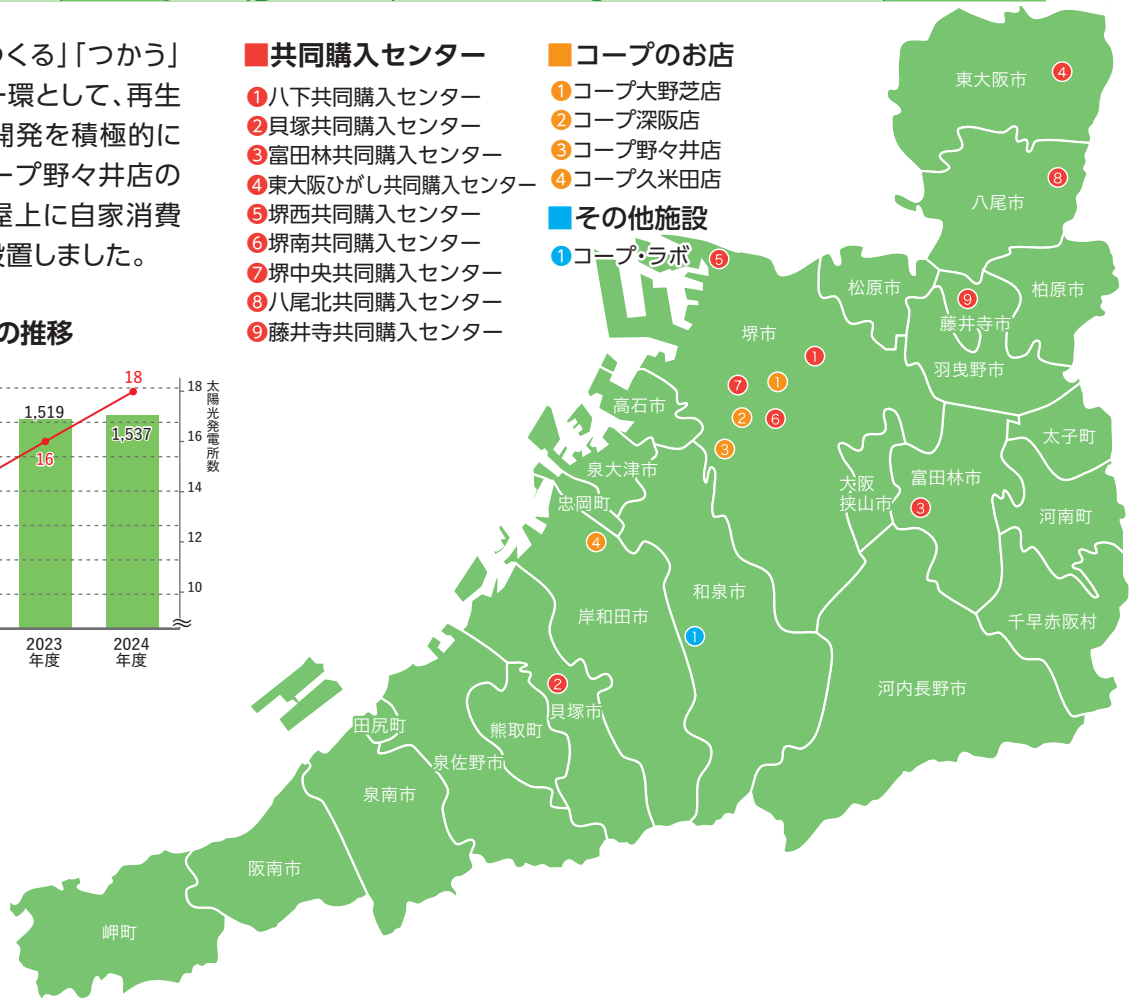
- ① 八下共同購入センター
- ② 貝塚共同購入センター
- ③ 富田林共同購入センター
- ④ 東大阪ひがし共同購入センター
- ⑤ 堺西共同購入センター
- ⑥ 堺南共同購入センター
- ⑦ 堺中央共同購入センター
- ⑧ 八尾北共同購入センター
- ⑨ 藤井寺共同購入センター

コープのお店

- ① コープ大野芝店
- ② コープ深阪店
- ③ コープ野々井店
- ④ コープ久米田店

その他施設

- ① コープ・ラボ



おおさか気候変動対策賞

特別賞(脱炭素化ランク:ゴールド)を受賞しました。

「大阪府気候変動対策の推進に関する条例」に基づき届け出した実績報告書のうち、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減が、基準年度の50%以上あることから、その評価結果が最良である事業者として表彰されました。



不要になった紙類や段ボール、プラスチックなどの容器包装、食品などを分別し、再資源化し、「ごみゼロ」をめざしています。

食品リサイクル・ループ

リサイクル・ループを通じて、食品廃棄物を削減しています。地域の生産者と一緒に、エシカルな野菜をつくっています。



「食品ロスを出さないために」をテーマに組合員の声が寄せられました。

買った食材は腐らせず、使い切ることを心がけています。余った野菜は切って冷凍しています。



棚の手前にある商品や、賞味期限の短い物を買うようにしています。すぐに使う物であれば、見切り品を購入しています。お財布にも優しい♪



作るメニューを決めてから食材を買います。冷蔵庫で腐らせる野菜はありません。



外食に行った際、食べ物を残さないこと。自分が食べきれないだけ注文することを心がけています。



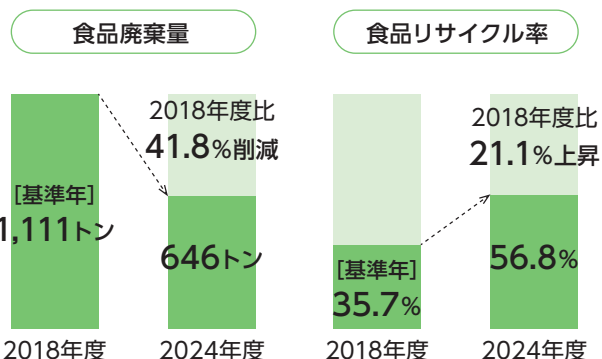
だからSDGs:第2回
みんなのSDGs
～食品ロスを出さないために～



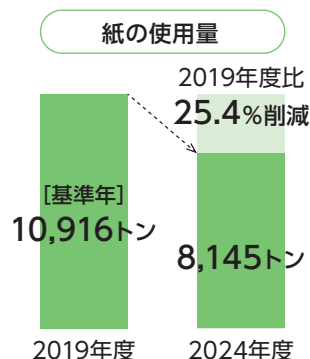
https://www.izumi.coop/kikanshi_izumi/2024/09/sdgs.html

2050ゼロ・エMISSIONの到達点

●食品廃棄物の削減



●宅配事業の紙の削減



●プラスチック容器包材の排出量削減

店舗の包材110アイテムをリサイクル原料を使用したものに切り替えました。

組合員協力によるリサイクル

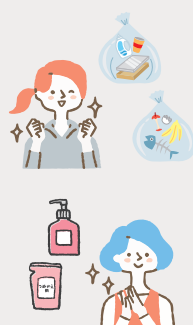
回収されたものは、こんなものに生まれ変わり、有効活用されています。



*写真はイメージです。実際とは異なる場合があります。

「リサイクルできるものは、リサイクル」をテーマに組合員の声が寄せられました。

- ごみの分別をきちんと行い、ごみはなるべく少なくして出しています。
- プラスチックごみの分別をきっちりしています。
- プラスチックごみを出さないため、シャンプーや洗剤は、詰め替え用を購入しています。
- 配送の日には、必ず内袋や牛乳パックをリサイクルに出すようにしています。
- 牛乳パック、たまごパック、ペットボトルは必ず洗って乾かして、買い物時に持参。お店のリサイクルボックスに入れています。



第3回みんなのSDGs
～リサイクルできるものは、
リサイクル～



https://www.izumi.coop/kikanshi_izumi/2025/02/sdgs.html

お買物支援

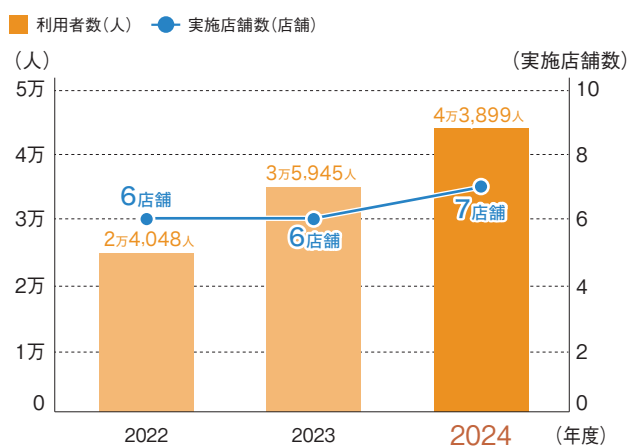


地域みなさんの「お買物したい!」をコープがお手伝いします。自分でえらべる、みんなに会える、お買物の楽しさを広げて、まちの笑顔と元気を見守ります。

コープのらくらくショッピングカー

ご高齢などの方向けに、ご自宅からコープのお店に無料で送迎するサービスです。事前登録制で週1回、決まった曜日・時間にご自宅までお迎えに行き、お店でのお買い物後にご自宅までお送りしています。7店舗で実施しています。

●コープのらくらくショッピングカーの推移



コープのお買物支援詳しくはコチラ

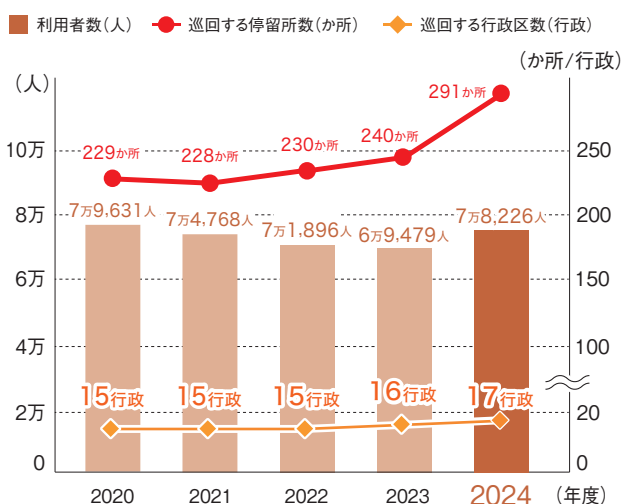
<https://www.izumi.coop/shopping/shop/okaimonoshien.html>



コープのお買物便

お買い物に困った地域に毎週巡回しています。交通手段がない、ひとりでの買物が不安、子育て中…。お買物に困りの地域のお声にお応えして、トラックにコープのお店の商品をいっぱい、楽しさいっぱいにしてお届けします。

●コープのお買物便の推移



らくらくショッピングカー



ご自宅まで送迎しています



コープのお店でお買い物

お買物支援 利用者の声

Voice らくらくショッピングカー

主人が運転免許を自主返納した後、娘や友人に車で買い物へ連れて行ってもらっていたけど、申し訳なくて…。迷惑かけなくなってすごくうれしい!

自転車に乗れなくなったので久しぶりにショッピングカーを利用してコープのお店に来ました。これから毎週来てくれるから本当に便利。隣の方も買い物に困っているから誘うわ。

いずみ市民生協に入って何十年にもなるけど、こんなサービスをしてくれるなんて…。コープに入ってから本当に良かった。

詳しくはコチラ



https://www.izumi.coop/hondana/kikanshi_izumi202403/#page=13



コープのお買物便



コープのお買物便のようす



トラックの中には商品がたくさん!

お買物支援MAP

- お買物便 運行中の市町村
- いずみ市民生協の活動市町村

らくらくショッピングカー実施店

- コープ大野芝店 1
- コープ深阪店 2
- コープ城山店 3
- コープ泉佐野店 4
- コープ貝塚店 5
- コープ和泉中央店 6
- コープ野々井店 7



みんなの生活を
支えているよ



お買物便

近所にスーパーがなく、
車も手放したので、お買
物便はなくてはならない
存在です。これからもよ
ろしくお願いします。

毎週欠かさず利用してい
ます。担当の方にリクエ
ストをすると商品を持っ
てきてもらえるのでうれ
しいです。

お買物便が来るように
なり、近所の方と毎週お会
いするようになりました。
顔なじみの方も増え、楽
しいです。

詳しくはコチラ



https://www.izumi.coop/hondana/kikanshi_izumi202404/#page=13

地域福祉「とまとちゃん福祉基金」



いずみ市民生協では、「とまとちゃん福祉基金」を創設し、子ども食堂や学習支援、子どもの居場所づくりなどを行う地域団体の活動を支援しています。

とまとちゃん福祉基金について詳しくはコチラ



<https://www.izumi.coop/activity/attempt/fukusikikin/>

とまとちゃん福祉基金 設立の背景

●子どもの貧困の現状

厚生労働省によると、日本の17才以下の子どもの貧困率は11.5%で8.7人に1人(2021年)が貧困状態にあるといわれています。ただし、困窮という言葉からイメージする飢えてやせ細ったような状態は少数で、その多くが一見しただけではわからない「見えにくい貧困」です。

●どの家庭にも起こりうる、貧困のリスク

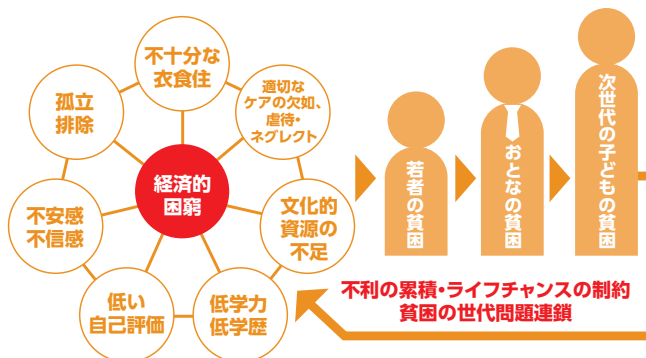
「見えにくい貧困」を招く出来事は、どの家庭にも起こりえます。

子どもの貧困のリスク

- ・家族の病気やケガ
- ・自然災害
- ・生計者の失業や倒産
- ・介護・看護に伴う収入減
- ・離婚や死別などによるひとり親での子育て

●子どもの貧困が引き起こす「貧困の連鎖」

貧困は、子どもが成長するために必要な普通のくらしを不安定にします。病気の治療、友だちとの学校生活や部活、勉強や進学で選べる範囲など、子どもの毎日のことから人生の可能性にまで影響するのです。そして、貧困状態が続くと「貧困の連鎖」が生み出されます。



いま、目の前にいる子どもたちを、地域みんなの力で守り育てたい。明日、自分の身に起こりうる問題について、相互扶助の力で助け合おう。こうした思いから、子どもたちに手を差し伸べてくださる地域の専門家やボランティア、行政、社協の方々と、組合員・お取引先とをつなぐのが「とまとちゃん福祉基金」です。生協だけでできることは限られますが、地域の力をつなぐことで、数々の支援活動を形にしています。

子ども食堂などに食材を寄付しています。

子ども食堂や学習支援のとりくみをすすめる団体、それらを支援する行政・社会福祉協議会などに食材を寄付しています。宅配事業の予備商品や、組合員にお届けできなかった未使用の商品を利用しています。

CHECK 食材提供の実績

- ・宅配物流センター分 お米 11.3トン
お米以外 25.1トン
- ・宅配事業所分 86.7トン
- ・店舗フードドライブ分 4.7トン(組合員提供分)



店舗のフードドライブボックスのようす

とまとちゃん福祉基金の実績

●支援実績

2024年 のべ65団体へ
支援総額1,557万円

支援の内容

Aコース

57団体/支援総額 14,970,000円

食品や衛生品等の配布活動を含む、子どもの居場所づくり活動を支援しました。

Bコース

5団体/支援総額 494,000円

学用品等の支援、一定期間や単発で子どもの生活や学習を支援する活動などを支援しました。

Cコース

3団体/支援総額 110,000円

子どもの居場所づくりの募金やボランティアを増やす活動を支援しました。

支援団体数

とまとちゃん福祉基金は、いずみ市民生協の活動エリアの団体を支援しています。

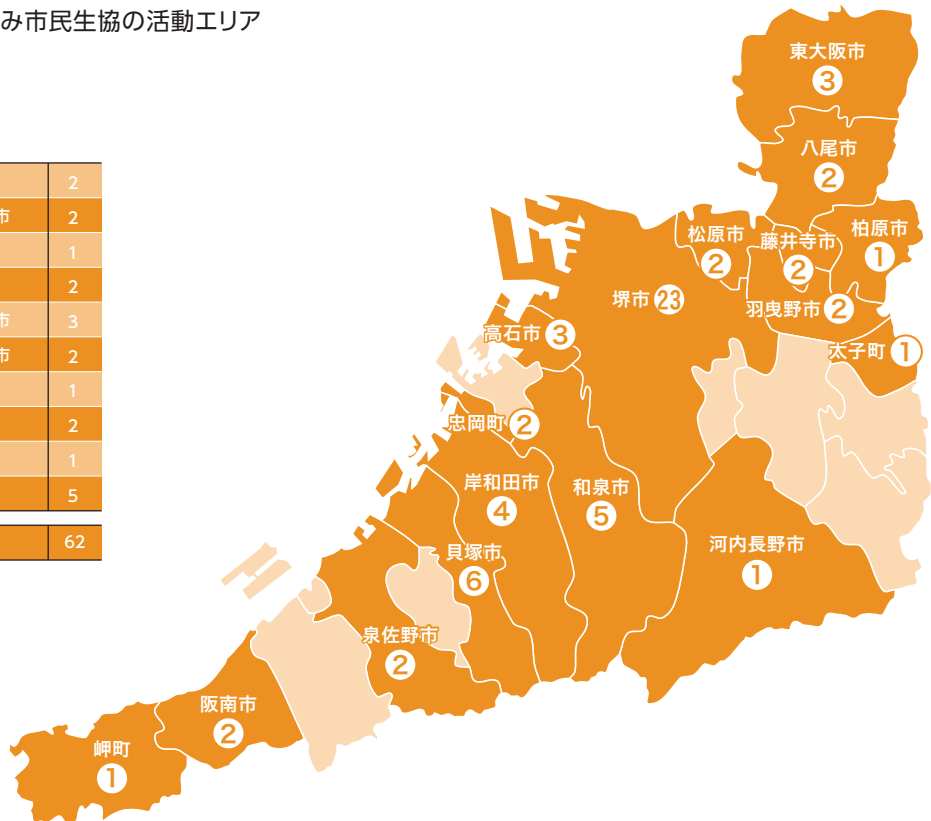
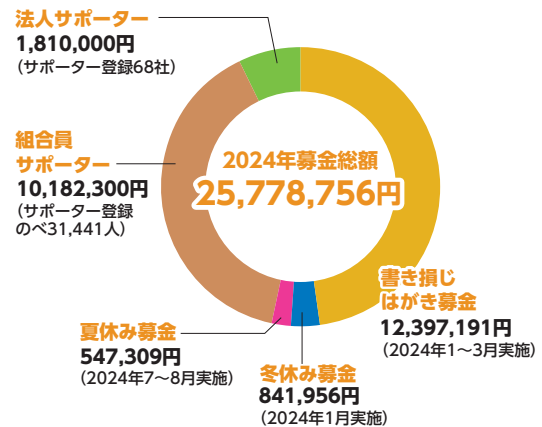
●2024年の支援状況

羽曳野市	2	松原市	2
河内長野市	1	泉佐野市	2
貝塚市	6	太子町	1
岸和田市	4	忠岡町	2
高石市	3	東大阪市	3
阪南市	2	藤井寺市	2
堺市ほか	1	柏原市	1
堺市堺区	7	八尾市	2
堺市西区	3	岬町	1
堺市中区	2	和泉市	5
堺市東区	4	総計	62
堺市南区	4		
堺市北区	2		

●募金総額

2024年1～12月に寄せられた
募金総額 約2,577万円

内訳



📷「なにわフードバンク しっかり食べや」が設立されました。

大阪の食に関わる協同組合などの団体が力を寄せ合い、新たに大阪府下の全エリアを活動対象とする「なにわフードバンク しっかり食べや」を立ち上げました。いずみ市民生協も加盟しています。

支援を必要としている子ども、若者、ひとり親家庭や生活困窮者などの方に、団体、個人などから受け付けた食品などを食材配布提携先団体を通じてお届けします。地域住民による相互扶助を盛り立て、社会福祉の増進と食品ロスの削減に取り組みます。



なにわフードバンクセンター



詳しくはコチラ



<https://naniwa-foodbank.com>

被災地支援



いずみ市民生協では、自然災害によって被害を受けた地域の復旧・復興支援に取り組んでいます。2024年元日に起こった能登半島地震と9月の豪雨により甚大な被害を受けた石川県への支援活動をすすめています。

能登半島地震・豪雨災害の支援

●地震・豪雨基金の取り組み

能登米の産直産地であるJAのと、JA内浦町と日本生協連、石川県、日本赤十字社、石川県共同募金会を通じて、総額76,044,404円をお届けしました。

募金送金先	地震募金	募金送金先	豪雨募金
産直産地 JAのと	7,000,000円	産直産地 JAのと	4,000,000円
産直産地 JA内浦町	3,000,000円	産直産地 JA内浦町	1,000,000円
日本生活協同組合連合会	45,500,000円	石川県、日本赤十字社、石川県共同募金会	15,544,404円
合計	55,500,000円	合計	20,544,404円

●支援品の無償提供

ブルーシート 500枚

いずみ市民生協で備蓄をしていたブルーシート500枚を、氷見市役所に無償で提供しました。



飲料水 200ケース(1ケース:20×6本)

断水等により飲み水の確保に苦労されている避難所に、飲料水をお届けしました。



パレンティンチョコレート 210個

能登町で炊き出しをされている団体に、チョコレートをお届けしました。エリアリーダー・組合員理事・職員による応援メッセージを添付しました。



軽トラック 10台

生協の配達で使用していた軽トラックを無償で譲渡しました。能登町のボランティア活動などで役立てていただきました。



令和6年能登半島地震と豪雨災害の支援募金を能登米の生産者にお届けしました。

コープの宅配、コープのお店でご協力いただいた募金のうち、1,500万円を産直産地である能登米の生産者(JAのと、JA内浦町)にお届けしました。これからも能登の被災者と能登米の生産者のみなさんの支援を続けていきます。

被災地支援の取り組みについて



https://www.izumi.coop/kikanshi_izumi/2024/04/sdgs.html?ts=p0hajimaru

ボランティア支援の取り組みについて



https://www.izumi.coop/kikanshi_izumi/2024/05/sdgs.html?ts=p0hajimaru



JAのとへの募金贈呈のようす



JA内浦町への募金贈呈のようす

● ボランティア活動による支援

組合員ボランティア

大阪府生活協同組合連合会、おおさかパルコープ、よどがわ市民生協と共同で、被災地支援のボランティア活動をすすめました。「顔の見える支援」をめざし、土・日曜の二日間にわたって支援に入る活動を実施。被災地からの要望を受け、輪島市内の公民館や集会所をお借りし、たこ焼きの炊き出しを行いました。

参加した組合員の声

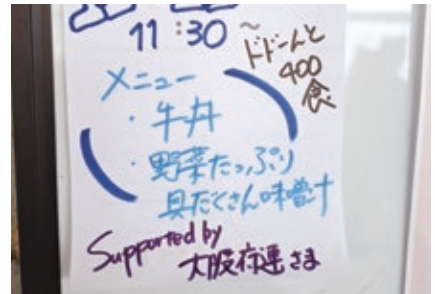
実際に自分の目で輪島の様子が変わったことがとてもありがたかったです。一番よかったと思えることは、地元のみなさんと一緒にたこ焼きを焼きながらお話をさせていただけたことです。私のまわりの方と能登の被災地について話をする機会が少ないと感じていたので、これを機におみやげを渡しながら、現地の様子を伝えたいと思います。

現地の状況を前に、私たちの活動だけで根本的な変化を起こすのは難しいと感じる一方、大阪の「たこ焼き」を通して被災地の方と交流し、少しでも楽しんでいただけたことは本当に嬉しかったです。些細なことでも人の役に立てたことに喜びを感じましたし、また機会があればぜひボランティア活動に参加したいと感じました。ありがとうございました。



職員ボランティア

大阪府生活協同組合連合会が呼びかけたボランティアにいずみ市民生協グループの職員が参加しました。能登町、輪島市では、炊き込みごはん、うどん、たこ焼きなどの炊き出しや、清掃作業、住民との交流を目的としたサロン活動などを行いました。また、日本生協連・能登町社会福祉協議会・災害ボランティアセンターの災害ボランティアにも職員が参加しました。地元の方と一緒に活動に取り組み、津波による床上浸水や傾きなどの被害を受けた家屋で、家具などの運び出しや片付けなどの支援を行いました。



ローリングストックによる備えを呼びかけています。

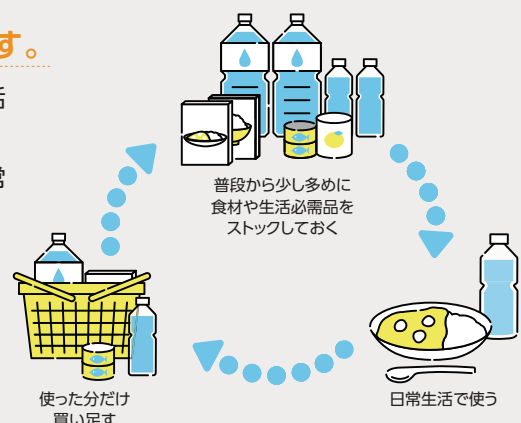
ライフラインや流通がストップする被災時にも、なるべく日常に近い生活を送れるよう、各家庭での災害への備えが重要です。

ローリングストックとは、ストック(備蓄)をローリング(回転)すること。日常生活のなかに備蓄を取り込みます。

ローリングストックについて詳しくはコチラ



https://www.izumi.coop/kikanshi_izumi/2025/01/feature.html



人権尊重と平和の取り組み



平和は、人間の生存のすべての人権の前提です。いずみ市民生協では、SDGsの優先課題のひとつに「平和を求める声を上げます」を掲げています。

平和を守る取り組み

●戦争被爆国にある生協としての取り組み

世界で唯一の戦争被爆国にある生協として、日本生協連をはじめとする生活協同組合と連携し、全国で核兵器廃絶をめざす取り組みをすすめてきました。また、歴史や現状から戦争の悲惨さ、いのちの大切さを学ぶ活動を通して、多くの人に平和を考える機会を提供しています。

●核兵器禁止条約に署名・批准を求める署名

「核兵器禁止条約に署名・批准を求める署名」に取り組みました。

署名実績 4,628筆(累計)

コチラから
署名ができます



https://www.izumi.coop/news/topic_220404sig



生協本部内常設展示: 第五福竜丸の模型

いずみ市民生協の堺東本部1階ロビーには、アメリカの水爆実験によって被爆した「第五福竜丸の模型」が常設されています。これは、実際に被爆した当時の乗組員である大石又七さんから寄贈されたものです。日本が受けた第三の核兵器による犠牲の歴史とその恐ろしさを風化させることなく伝えていくための、貴重な資料です。

【第五福竜丸の被爆とは】

1954年3月1日、アメリカがマーシャル諸島のビキニ環礁で実施した水爆の爆発実験により、近海でマグロ漁を行っていた「第五福竜丸」の乗組員全員が被爆しました。乗組員が受けた被爆線量は広島原爆の爆心地から1キロ程度の場所で被爆した人と同程度といわれ、その後においてさまざまな健康被害の症状が出たのです。



日本被団協のノーベル平和賞受賞に敬意を表します

●核兵器廃絶をめざす日本被団協がノーベル平和賞を受賞

2024年10月、同年のノーベル平和賞が日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に授与されることが発表され、12月に授与式が執り行われました。日本人の平和賞受賞は50年ぶりとなります。

日本被団協は、1956年の発足以来、核兵器のない世界を実現するための努力と核兵器が二度と使用されてはならないことを被爆者として国内外に発信し続けた功績が認められました。

いずみ市民生協は、この国際的な評価である受賞に心からの祝福と敬意を表し、今後の平和への取り組みについて心新たにしました。

商品仕入れからお届けまで生協の事業活動にかかわる人権リスクへの対応をすすめます。

「カスタマーハラスメントに対する基本方針」

「カスタマーハラスメントに対する基本方針」を策定し、カスタマーハラスメントから従業員を守る体制を整備しました。「カスハラ」対応とともに応対接遇品質の向上を図る従業員教育をすすめます。



カスタマーハラスメント に対する基本方針



<https://www.izumi.coop/about/coop-info/philosophy/#Customerharassment>

平和を守る取り組み

●「私の戦争体験」発行

戦争の悲惨さと平和の大切さを、次世代に語り継ぐ取り組み、「私の戦争体験第46集」を発行しました。あわせて、掲載しきれなかった体験談を、ホームページ上の「私の戦争体験アーカイブ 戦争体験＋プラス」に公開しました。

「私の戦争体験」
アーカイブはコチラ

<https://www.izumi.coop/sensoutaiken/index.html>



私の戦争体験第46集

●ユニセフ支援活動

いずみ市民生協は、ユニセフが行う世界の子どもの命と健康を守るための活動を支援しています。また、飢餓と貧困に苦しむ世界の子どもの現状を考える学習協力プログラムを、大阪ユニセフ協会の協力を得て取り組んでいます。

ユニセフ一般募金 2024年度 募金総額 2,943,112円(宅配・店舗)

平和学習企画

●高校生“沖縄特派員”新聞の発行

戦争の歴史や現状を戦地であった沖縄で学ぶ「高校生沖縄特派員」に、7人の高校生が参加しました。戦跡や基地を訪問して取材し、毎日新聞の協力を得て「高校生“沖縄特派員”新聞」を発刊。宅配、店舗で組合員に配布しました。



高校生沖縄特派員と
現地取材のようす

「高校生“沖縄特派員”
新聞」はコチラ



<https://www.izumi.coop/activity/peace/#peacefulllearning>

●組合員活動委員会での平和学習

平和への声を広げる活動として平和学習をすすめています。昨夏は、戦争に関する本や絵本を持ち寄り、感想交流を通じて、戦争の怖さ・悲惨さを再認識しました。

『風が吹くとき』
作・絵：レイモンド・ブリッグズ
訳：さくま ゆみこ
出版社：あすなる書房

Voice 組合員の声

読み始めの和やかな雰囲気、最後まで読むとまったく違う印象になりました。

日常はあっという間になってしまう・備えは必要・最後まで希望は捨てない…考えさせられました。



📷 お取引先とともにすすめる人権尊重の取り組み

毎年、主なお取引先が集う「いずみ・わかやま友の会」に対して、人権尊重などへの取り組みの呼びかけを行っています。具体的な取り組みとして、お取引先に向けた学習会とアンケートを開始しました。

●お取引先を対象とした人権学習会

2024年10月に、外部講師による、お取引先を対象とした人権学習会を開催しました。web参加を含め74社が参加されました。

●お取引先を対象とした人権アンケート

お取引先を対象とした「人権に関するアンケート」を実施し、140社から回答をいただきました。今後も継続的に取り組み、データを分析し、結果をお取引先にお返ししていく予定です。



働きがいのある職場づくり



誰もがいきいきと働き続けられる職場づくりをすすめています。

人的資本経営を推進しています。

「ありがたい姿」は、「事業と活動を通じて地域のくらしに笑顔を届けること」です。それを実現するために、「人的資本を大切に経営」の指針を23年度の本レポートで開示し、「理念とビジョンの浸透」「人材育成」「職場環境整備」などの取り組みを行っています。その一環として、年に50件以上の職員研修の実施や、職員一人ひとりの主体的挑戦を広げていくために、各職場での仕事の変革や品質向上等の実践報告を行う「業務変革フォーラム」を毎年開催しています。



ワークライフバランス・男女共同参画・障がい者雇用

●仕事と家庭・地域での生活を両立し、誰もが活躍できる職場づくりをすすめています

宅配ではゴールデンウィークの配送を、店舗では正月三日を基本に一斉休業とし、仕事と家庭・地域での生活の両立を支援しました。また、役員・管理職・現場の所属長が育児・介護やワークライフバランスなどに理解・配慮ある上司として「イクボス宣言」を行っています。



託児所の様子

●くるみん認定



●えるぼし認定(最上位の3つ星)



*いずれもいずみ市民生協



介護休業の取得者数 (いずみ市民生協グループ) **19人**
女性管理職比率 (いずみ市民生協グループ) **12.6%**
障がい者雇用率 (いずみ市民生協グループ) **6.13%**
※法定障がい者雇用率 2.5%

育児休業の取得者数／取得率 (いずみ市民生協グループ)

	対象者数	取得者数	取得率
男性	31	16	51.6%
女性	11	11	100.0%
合計	42	27	64.3%

データブック

●職員・社員数 (いずみ市民生協グループ)

	男性	女性	合計
正規職員・社員数	935人	302人	1,237人
定時職員・社員数	526人	2,305人	2,831人
合計	1,461人	2,607人	4,068人



時間外労働の月平均時間 (いずみ市民生協) **14.6時間**
有給休暇の年間取得平均日数 (いずみ市民生協) **12.4日**

●男女間賃金格差 (いずみ市民生協)

区分	男女の賃金差異 (男性の賃金に対する女性の賃金の割合)
全労働者	56.4%
正規職員	68.1%
パート・有期職員	91.7%

・正規職員：出向者を除く
 ・パート・有期職員：パート・アルバイトが該当
 ・賃金：通勤手当等を除く

・全労働者のうち女性定時職員が約4割を占めます。
 ・基幹事業である宅配の事業特性から、過去に男性の採用に重点を置いてきました。
 ・勤続年数が長い職員は圧倒的に男性が多く、年数が長い分、所得も高くなっています。

新人職員や次世代などへの多様な研修制度を運用しています。

職員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、やりがいを持ってチャレンジできる環境づくりが大切です。新人職員や次世代、管理職などへの多様な研修制度を運用するとともに、2024年度から新たに「メンター制度」を導入し、新人職員への育成・フォローする体制を強化しています。



研修のようす

●研修

分類	研修名	参加者数
新人	入協時研修	14人
新人	3か月フォロー	13人
新人	6か月フォロー	13人
新人	1年後フォロー	13人
新人	中途フォロー研修	3人
新人	入協時研修 定時職員①	7人
新人	入協時研修 定時職員②	6人
階層別	所属長学習会①	57人
階層別	所属長学習会②	59人
階層別	トレーナー研修	14人
階層別	3・4年目研修	11人
階層別	コープスクールネクストⅠ	35人
階層別	コープスクールネクストⅡ	33人
階層別	女性リーダー/マネジャー研修	27人
海外	フランス研修	9人
課題別	ライフプランセミナー	14人
課題別	若手ライフプランセミナー	10人
課題別	平和	14人
課題別	防災士	15人
部門別	商品知識学習会	165人
部門別	久米島産直産地研修	10人
合計		542人

ハラスメントがない職場づくり

役職員・社員の基本姿勢や学習パンフレットなどによる啓発を定期的に行っています。また、毎年、全職員・社員を対象に法令・部内ルールなどに関するモニタリングを実施し、よりよい職場づくりにつなげています。

●ヘルプライン

外部相談窓口を設置し、通報・相談しやすい仕組みを運用しています。相談者が不利益を受けていないかの確認も実施しています。(ヘルプラインの相談件数は下記を参照ください)



●ヘルプライン / 内部通報制度の相談件数 (いずみ市民生協グループ)

相談内容	相談件数	前年差
セクシャルハラスメント	1件	+1件
パワーハラスメント	0件	±0件
職場の人間関係・コミュニケーションの悩み	19件	+2件
就労規則や仕事のルール	2件	-1件
法令・社会的ルール	2件	+2件
その他	14件	-24件
合計	38件	-20件

●労災事故の発生件数 (いずみ市民生協グループ)

	発生件数
労災事故	78件
通勤災害	41件

●メンタルヘルスの休職人数 (いずみ市民生協グループ)

	休職人数	従業員に占める割合
メンタルヘルス休職者数	15人	0.37%
うち再発者数	3人	—

メンタルヘルスの相談窓口を設置し、発症者には「復職プログラム」の適用で、無理のない復帰を支援しています。

社会的責任懇談会

社会的責任懇談会を開催しました。

有識者と非常勤理事に参加いただき、2025年度から始まる第15次中期計画を中心とした専務理事報告やいずみ市民生協の取り組みに関する「2024年度サステナビリティ評価案」について意見交換を行いました。

●社会的責任懇談会メンバー（順不同）

杉本 貴志	関西大学教授
加藤 祥子	サステナ・デア・ジャパン・オフィス代表
小崎 俊司	大阪府立大学名誉教授
赤羽 真紀子	CSRアジア日本代表
平川 秀幸	大阪大学教授 大阪いずみ市民生活協同組合理事
坂井 勝恵	大阪いずみ市民生活協同組合理事
椿原 雅子	大阪いずみ市民生活協同組合理事
花田 尚実	大阪いずみ市民生活協同組合理事
吉川 佐和子	大阪いずみ市民生活協同組合理事

●懇談会のようす（抜粋）

杉本貴志氏:CO₂の問題について、事業の取り組みも大事ですが、組合員の生活のなかで取り組みをすることが生協の使命ではないかと考えます。クリーンな電気を求める層に対し選択肢を提供することは大事だと感じました。

久保専務理事:CO₂削減に組合員参加を広げることは大事だと認識しています。過去にCO₂排出ゼロのメニューを提供しましたが、利用は広がりませんでした。知らせ切れていないことも事実なので、発信は強めていきたいと考えます。

杉本貴志氏:障がい者雇用について、いずみ市民生協グループは高い雇用実績を実現できていることは評価できます。さらに進めて障がい者雇用の質に目を向けて、労働者への利益還元や働き甲斐を考慮する取り組みが必要ではないでしょうか。

久保専務理事:障がい者雇用についてさまざまな取り組みを行っていますが、サステナビリティ評価には反映できていません。次年度以降反映できるようにします。

加藤祥子氏:今後、DXやデジタル化による効率化は必須の課題ですが、効率化の影響として人員が余剰になる恐れがあります。その一方で、事業拡大をする中で人員不足が問題となります。発想を逆転し、まずデジタル最適化された店舗等を作ったうえで、人の再分配を考えるなど、人員を部門等で縛るのではなく、マッチングを行い、人員を流動化させていくなどの検討が必要ではないでしょうか。

久保専務理事:生産性向上や効率化で生み出した人員で、あらたな収益を創出する必要があり、ご指摘を受けとめ検討していきます。



赤羽真紀子氏:共働き世代には、家に帰って食材が届いていることや、食材キットはメリットがあります。一方で、セキュリティ等の問題があり、マンションセキュリティや置き配の課題について、対策を強化すべきではないでしょうか。

久保専務理事:共働き世代に対する課題は検討しています。生協のメリットをどのように発信していくのかは大きな課題であり、今後強めていきます。マンションセキュリティで課題となっているオートロックマンションへの対策の一つとして、スマートフォン認証による解錠システムサービスの導入など実験をすすめています。

小崎俊司氏:夏場の暑さ対策が課題になっていますが、配送担当の労働条件はどうなっていますか。

久保専務理事:夏場の対策が急務であり、2025年度からお盆の時期に連休を設けます。また、今年から配送車輛の荷台にクーラーを設置した車輛を実験導入します。

平川秀幸氏:エシカル消費の認知を高める取り組みとして、コープ商品やエシカル商品の魅力や理念を共有することができないでしょうか。組合員の生活に密着したところから、コミュニケーション課題として取り上げるのがよいのではないかと思います。

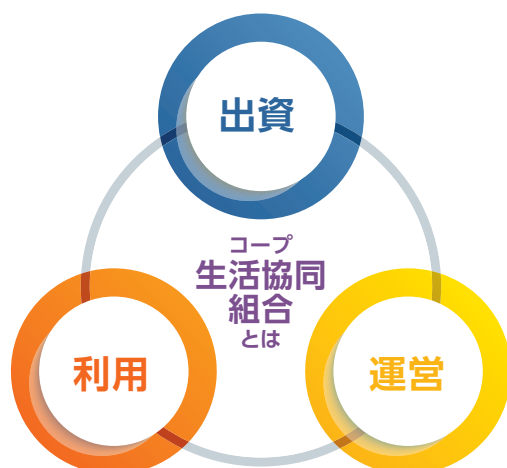
久保専務理事:その通りだと思います。課題として設定します。

みなさまからたくさんの貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今後の運営に生かしてまいります。

生協って何？

生協は、消費者が資金を出し合い、運営・利用する「消費者による消費者のための組織」です。いずみ市民生協は「くらし(生活と健康)を守るために」、「みんなの思いと力を合わせること」で、1974年に創立しました。

生協のしくみ



出資

一人ひとりの小さな力を集めた『協同の力』で、願いを実現します。出資金は事業・活動の元手となる大切な資金です。

運営

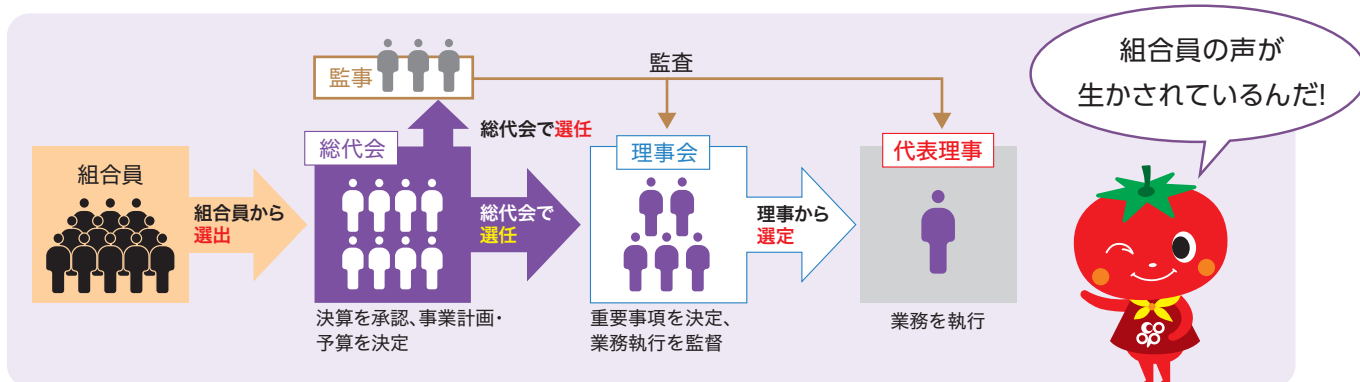
組合員は誰でも運営に参加できます。みんなで知恵を出し合い、力を合わせて組合員の願いをかなえ、よりよい生協となることをめざします。

利用

組合員は宅配・店舗をはじめとするさまざまなサービスが利用できます。

生協の運営のしくみ

生協の事業・活動方針は、組合員の代表によって、最高意思決定機関の総代会で決定されます。



組合員活動

主体性・自発性を大切にした組合員活動を行うための組合員の組織があります。コープ商品を中心に、くらしのニーズ、社会的テーマなどにもとづく活動をすすめています。



メーカーを囲うつどいのような



組合員作成のおすすめチラシ



組合員の口コミサイト

いずみ市民生協の概要

組織の概要

(2025年3月末現在)

名 称	大阪いずみ市民生活協同組合
所在地	〒590-0075 堺市堺区南花田口町2-2-15
活動エリア	大阪府下25市町村(大阪市を除く東大阪市以南)
代表者(代表理事)	理 事 長 勝山 暢夫 専務理事 久保 幸雄
設 立	1974年11月5日
出資金	167.0億円
組合員数	568,565人
職員・社員数	いずみ市民生協単体:1,075人 いずみ市民生協グループ全体:4,068人
グループ会社	(株)コープ大阪サービスセンター (株)コンシェルジュ (株)ハートコープいずみ (株)いずみエコロジーファーム

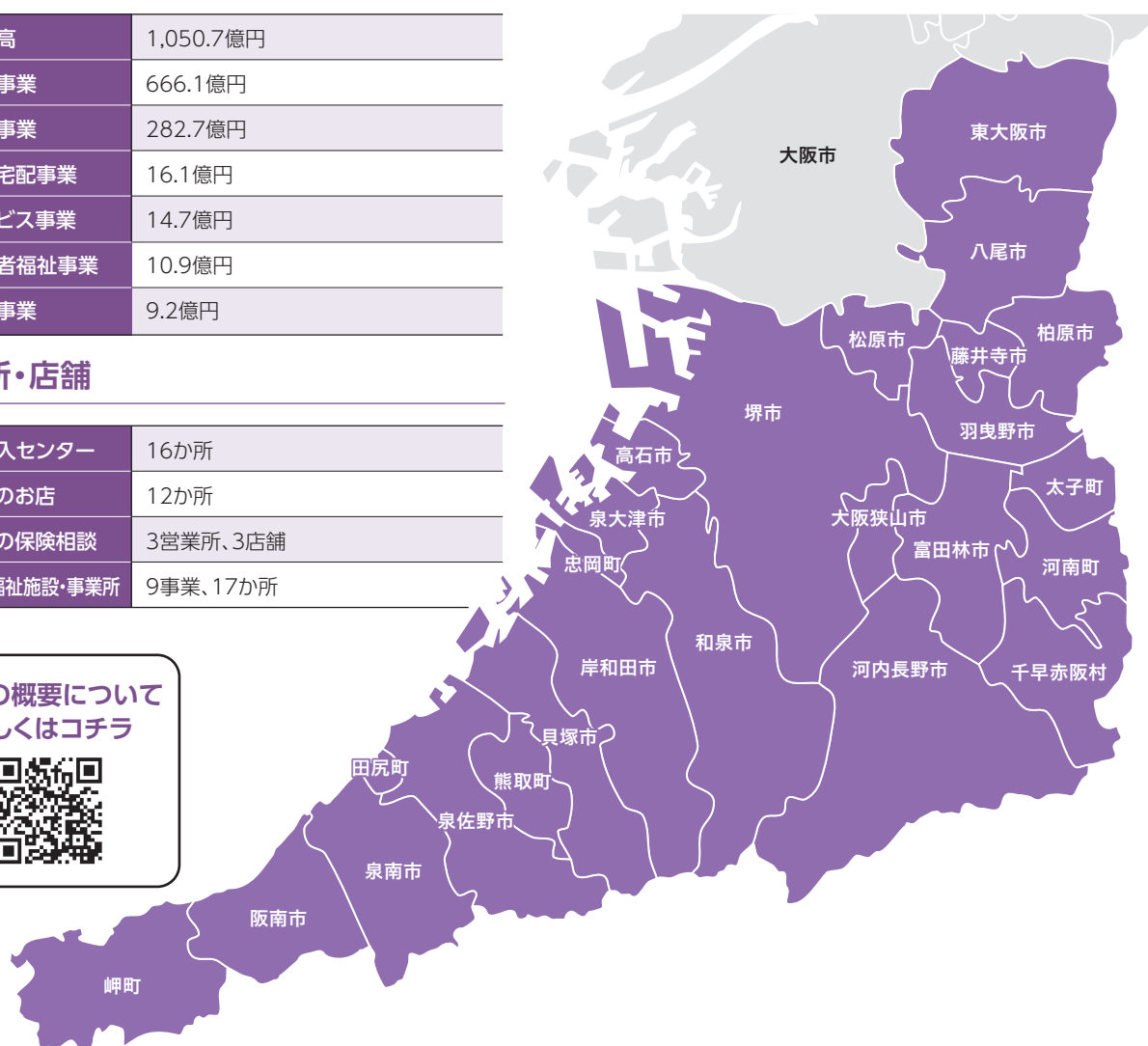
事業概況

総事業高	1,050.7億円
宅配事業	666.1億円
店舗事業	282.7億円
夕食宅配事業	16.1億円
サービス事業	14.7億円
高齢者福祉事業	10.9億円
保障事業	9.2億円

事業所・店舗

共同購入センター	16か所
コープのお店	12か所
コープの保険相談	3営業所、3店舗
高齢者福祉施設・事業所	9事業、17か所

活動エリア



生協の概要について
詳しくはコチラ



事業紹介

コープの宅配

暮らしに役立つ商品・サービス情報を、毎週の配送を通じてお届けしています。



コープのお店

おいしさ・楽しさ、感動、健康が伝わるコープのお店です。



コープの夕食宅配

管理栄養士が監修したバランスのとれた豊富なメニューで、幅広いご年齢の方々にご利用いただいています。



コープのネットスーパー

コープの美味しいを、ネットで注文、おうちにお届け！



CO・OP共済／保障

生協ならではの共済と保険で、最適な補償をお届けします。



サービス事業

チケット・カタログ事業など、暮らしに役立つサービスを提供しています。



コープの介護・看護

医療や介護が必要になってもできるだけ長く住み慣れた地域で暮らし続けることを大切にします。



いろんな事業があるんだ！

50年のあゆみ

いずみ市民生協は
2024年11月に創立50周年を迎えました。
地域とともに歩んできた50年を紹介します。



いずみ市民生協 創立

独自開発商品の第1号は
「しょうゆ」。

1974



「私の戦争体験」 (第1集)を発行

1979



羽曳野物流センター を稼働

個人別注文書、班別仕分け、翌週配送が実現しました。

1981



商品検査 センターを開設

組合員に安心して利用
していただくために、生
協商品の安全性を確保。

1993

1977

大内山酪農と初めての 産地交流を開催

1975

支部運営委員会を設置

組合員の声を運営や方針に生か
しにくために9つの地域に設置。

1990

CO・OP共済 〈たすけあい〉の 取り扱いを開始

1999

個人別配送 (個配)を開始

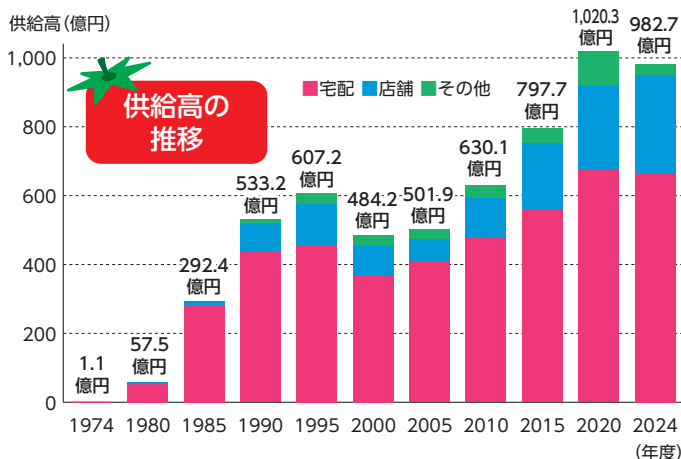
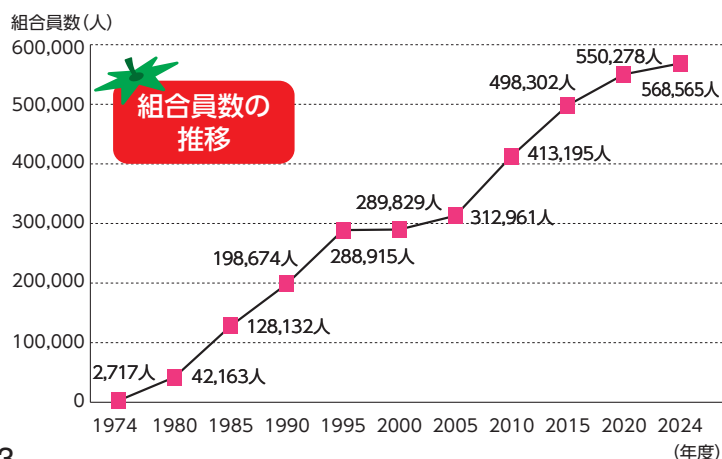
1997

不祥事の発覚

当時の常勤トップのモラルや
機関運営上の問題の内部告発
があり、改善委員会を設置。

1980

第1号店の コープ深阪店オープン



コープ委員会 活動がスタート

支部委員会・お店委員会を再編し、組合員の主体性と自発性を尊重した組合員活動がスタートしました。

2001



コープの 夕食宅配を開始

栄養管理士が監修した夕食(弁当)のお届けを開始。

2009



コープのお買物便を (移動販売車事業)スタート

テクノステージ・あゆみ野物流センターに太陽光発電所を開設

2012



コープ・ラボ たべる*たいせつ ミュージアムがオープン

商品検査と食育の学習と見学ができる施設を開設。

2015

2017

とまとちゃん 福祉基金を設立

困難を抱える子どもたちに継続的にサポートする地域の活動を支援するために基金を設立。

2018

いずみ市民生協 アプリをリリース

宅配商品の注文やお店のホットな情報などを受け取れるアプリの運用を開始。

2020

まちのリビング すきいまをオープン

組合員や地域の方が主体的に参加できる居場所を開設。

2023

ペア配送を開始

コープのネットスーパーを開設

2024

2003

テクノステージ 物流センターを稼働

品温管理や鮮度管理の向上、取扱品目の拡大が実現。

2000

高齢者 福祉事業をスタート

介護保険制度に対応して、訪問介護事業や福祉用具貸与事業などを開始。

2010

農業生産法人 (株)いずみエコロジー ファームを設立

食品リサイクル・ループの一翼を担い、リサイクルたい肥を使用した農産物(コープ彩園)の生産を開始。

特例子会社 (株)ハートコープ いずみを設立

いずみ市民生協から排出される生ごみのたい肥化、牛乳パックやたまごパックなどのリサイクル品の加工販売などを開始。

2021

コープのらくらく ショッピングカー (お店への送迎サービス)の 運行を開始





サステナビリティレポート 2025

発行日：2025年6月17日

発行：大阪いずみ市民生活協同組合 総合マネジメント室
〒590-0075 大阪府堺市堺区南花田口町2-2-15

